

(様式1)

令和7年度学校評価結果報告書(高等学校用)

(1) 学校教育目標	(1) 「協調性、創造性、知識・技術と高い職業観倫理」を育成する。 (2) 「人間性豊かなプロフェッショナルとして産業界で活躍できる力」を育成する。 (3) 「健全で持続的な社会の発展を担う力」を育成する。	学校整理番号	33
(2) 現状と課題	(1) 学習習慣の確立及び基礎学力の定着と向上について、ICT教材を導入し朝学習等へ活用を始めたがクラスの担任の意識の違いによる学習への取組みに差があるため、早急に他校での活用状況と成果を本校職員で共有していく必要がある。 (2) 基本的習慣の観点から、道德教育の必要性と就職するまでの社会性を育む教育活動を各学科、教科で研修等を行い共有していく必要がある。	学校名	青森県立青森工業高等学校
(3) 重点目標	1 学習指導【(1)学習指導の充実 (2)学習習慣の確立】	全日制の課程	
	2 生徒指導【(1)基本的習慣の確立 (2)問題行動の未然防止 (3)特別活動・部活動の活性化と生徒育成】	自己評価実施日	令和 7年 11月 21日(金)
	3 進路指導【(1)自己理解から主体的進路選択 (2)進路意識の育成 (3)学校及び地域との連携】	学校関係者評価実施日	令和 8年 2月 16日(月)
	4 工業教育の推進【(1)ものづくりへの積極的な取組 (2)安全管理と専門技術の推進 (3)将来のビジョン、具体的目標を持たせる工夫】		
(4) 結果の公表	(1) 令和8年度PTA総会において報告する。(資料及び口頭による説明 令和8年4月18日(土)実施予定) (2) 本校HPに掲載する。 (3) 学校関係者及び全教職員には令和8年2月中旬に公表済み。	(9) -イ 学校関係者評価委員会の構成 学校評議員5名、 PTA各学年部会長、 学校長 教頭、事務長、 教務部主任 教務部事務局長	

自 己 評 価				学校関係者評価		(10) 次年度への課題と改善策
番号	(5) 評価項目	(6) 具体的方策	(7) 具体的方策による目標の達成状況	(8) 目標の達成度	(9) -ア 学校関係者からの意見・要望・評価等	
1	学習指導	(1)学習指導の充実 (2)学習習慣の確立	今年度よりICT教材のClassiを導入し、基礎学力向上に向けた取り組みをスタートさせたが、定着するまで時間が掛かった1年であった。他県で導入によって基礎学力向上の成果が出た学校へ訪問し、次年度の取り組みに生かせるようにしたい。しかし、教職員の意識が低いと難しい状況である。	B	資格取得については2年生が高く評価をつけている。資格の取得できる学科とそうでない学科もあると思うが、どういう資格がどう将来に使えるのかの説明が必要だと思う。	次年度はClassiで朝学習、授業等で学習にも取り入れながら活用していきたいと思う。併せて教員の意識改革も学校全体で行っていききたい。様々な研修を通して生徒達への寄り添った指導を行える環境作りをしていきたい。
2	生徒指導	(1)基本的生活習慣の確立 (2)問題行動の未然防止 (3)特別活動・部活動の活性化と心身ともに健全でたくましい生徒育成	挨拶の励行については全教職員をあげて取り組んでいる。「規律ある学校生活」の中で、服装頭髪指導については夏休み明けにも実施している。高等学校における防災教育推進事業を実施し、防災意識を高めることができた。	B	同じ町内であり、電車やバスで通学する生徒はよく見かけるが、自転車での2列走行が多いと感じる。法律も厳しくなっているので気を付けて欲しい。遅い時間に登校している生徒も見かける。文化祭では生徒達は楽しそうに活動している。	高等学校における防災教育推進事業は、様々なテーマで全校・全職員参加で実施しているが、中学校や野内地区との連携もとりながら有意義なものとなっているので、引き続き防災教育を行っていき必要性はあると思う。
3	進路指導	(1)自己理解から主体的な進路選択 (2)進路意識の育成 (3)学校及び地域との連携	今年度のキャリア教育活動について、インターシップは受け入れ可能な2学科のみとなっている。昨年度から始めた「オープンカンパニー」が大変好評であった。今年度は県内実業高校にも広げられている。	A	若者に変化が起こりはじめており、就職しても他社へ相談もなく受験し転職することを平気で社長へ伝えてくる。企業側が変わっていかねばいけないと感じている。多様化している先生方の指導に感謝します。	仕事をしながら対価を得る、オープンカンパニーが好評であるので、次年度も引き続き実施していきたい。
4	工業教育の推進	(1)ものづくりへの積極的な取組 (2)安全管理と専門技術の推進 (3)将来ビジョン、具体的目標を持たせる工夫	各種資格取得に向けた講習会の実施については、各学科の学びに対応する資格の取得に励み、特に電気科では電気主任技術者3種や危険物取扱者甲種に合格する者もいた。あおもり創造学では青森第二高等養護学校とのづくり交流を行い3Dプリンターを用いたリング型LEDオブジェの製作を通じて交流を深めることができた。	B	特に電気科での電気主任技術者3種や危険物取扱者甲種に合格は素晴らしい事だと思う。先生方の指導に感謝します。	資格取得に向けた取り組みの中で、講習会や授業を通して実際の社会現場とのギャップが無いように生徒達の関心意欲が低下しない指導が必要であると思う。資格等の知識が技術に応用できる事が望ましい。

(11) 総括	(1)昨年と同様に、高校教育における道德教育の在り方について、教職員の世代間での指導のギャップ等を様々な教職員研修によって埋めながら「気づき」の場面が必要であると感じている。 (2)学校の情報発信をこれまで以上に充実させ、地域・家庭との連携を図り、問題行動の未然防止につながる生徒指導を展開する。 (3)工業高校と地域企業との連携を図りながら、工業技術の魅力と若者を育てる環境作りを工業高校より発信し展開する。 (4)教育に熱心で、生徒達のために寄り添い対話を通じた、生徒との信頼関係を構築する。
---------	---